あさひかわ新聞 2010年（平成22年）5月11日号

日銀所長の あさひかわ楽（がく） ⑮

大武健一郎氏のビジョン「医療観光」

大武健一郎氏と初めてお会いしたのは、九七年だったと思います。私が、内閣官房に出向して行政改革の仕事の手伝い（内閣総理大臣補佐官付）をしていた時、当時大蔵省大臣官房の立場から、財務当局と税務当局はなぜ一体で運営されなければならないか、といったことをエネルギッシュに主張されていたのを鮮明に記憶しています。その話を黙って聞いていた出向先の私の上司（首相補佐官）は、「本来は米国の歳入庁のような形で税務当局を財務当局から分離させたかったが、今回は見送りか」と呟いていたことを懐かしく思い出します（結果として「財政と金融の分離」、すなわち金融庁の創設のみ実現）。

それから十数年後、旭川で大武さんにまたお目にかかるとは思ってもいませんでした。大武さんは、その後、財務省で主税局長、国税庁長官を歴任されました。退官されたあとも、商工組合中央金庫副理事長などを経て、現在、大塚ホールディングス代表取締役副会長を務めると同時に、ベトナム簿記普及推進協議会理事長、TKC全国会会長、大学の客員教授なども務めておられます。

この間、大武さんは、竹村健一さんや日下公人さんらと、たびたび来旭されては講演活動などを行い、当地経営者にはっぱをかけていただいています。グローバルな観点からの鋭い洞察力はもとより、ざっくばらんで、人懐っこい陽気なキャラクターもあり、一度お話をうかがうと多くの人がファンになってしまいます。また、卓越した「公のために奉仕する精神」にいたっては、公共政策に携わっている私としても頭が下がる思いです。

その大武さんが、この四月、旭川に個人オフィスを開かれました。月一回、二～三日程度滞在されるとのことですが、旭川にとっては大変喜ばしいことです。親しい人たちで開いた歓迎会の席上、大武さんは、旭川の強みである「医療」と観光を結びつけて、旭川をアジアにおける「医療観光」のメッカにしてほしいと力説されておられました。人間ドックや各種治療と観光をタイアップさせようということです。ベトナムをはじめアジア諸国におけるニーズも踏まえ、そのための仕掛け、具体的手順も示されました。周到に戦略を練って、きちんと調整を行い、一気に打って出よう、とのことでした。

医療観光のアイデアは、当地でもこれまで幾度となく浮上してきましたが、未だ本格的な導入には至っていません。これまでの議論がいかなる理由で頓挫してしまったのか、また、当時と今ではどのように社会・経済環境が変化しているのか、といった点を十分に検証した上で、外からの力と内なる力が融合することによって、この地で大きなうねりがおきてくることを心から願っています。

（日本銀行旭川事務所長）

※毎月第一週に掲載します

屋敷啓之（おいえ・ひろゆき）一九五八年（昭和三十三年）東京都生まれ。八一年（同五十六年）日本銀行に入行。米国ワシントンでの勤務や橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画役などを経て、〇七年（平成十九年）から旭川事務所長。趣味は音楽鑑賞、ミュージカル観劇、社交ダンス。